一般演題（ポスター）　性教育・性意識

座長：川島広江（川島助産院）

P－46

子どものセクシャリティ関する親の認識や対応
－娘の初経に着目して－

○久保田美雪[1)]　渡邊典子[1)]　小柳恭子[2)]
1）新潟青陵大学看護福祉心理学部看護学科　2）とくなが女性クリニック

Ⅰ　緒言

思春期の問題である 10 代女性の妊娠、出産に対応する性教育は、極めて重要な意義をもっている。特に、第二次性徴を迎える子どもの相談相手は「母親」が多く、家庭での母親が行なう性教育の大切さが、多数の研究で報告されている。そこで、子どものセクシュアリティに関連した危機の予防、という視点で娘の初経前後のセクシャリティに関する母親の認識と対応を明らかにすることを目的とする。

Ⅱ　方法

研究デザインは質的記述的研究法。2014 年 6 月～8 月に、小学 4～6 年生の女児を持つ母親に半構成的面接を実施した。データ分析は、面接によって得られたデータを逐語録に起こし、研究参加者ごとに、本研究の目的に沿って文脈を抽出してコード化し、サブカテゴリー、カテゴリーに整理した。本研究は新潟青陵大学研究倫理審査委員会の承認後に実施した（承認番号 2014004）。研究参加者には、書面と口頭にて本研究の趣旨と研究目的・方法・倫理的配慮について説明を行ない、同意を得た。

Ⅲ　結果

研究参加者は 5 名（娘が初経有り 1 名、無し 4 名）、平均年齢 38.2 歳。家族構成は夫有り 5 名、子どもの数は 2～4 人。分析の結果、初経前のセクシャリティの認識と対応について 6 つのカテゴリーに分類できた（カテゴリーは【】、サブカテゴリーは＜＞で示す）。娘の身体の成長に伴い【安全への対応】として＜性犯罪に巻き込まれない工夫＞＜娘の交友関係の把握＞＜適正な性情報のみを受け取って欲しい＞と考えていた。【性教育は、学校でするもの】として＜性教育は学校におまかせ＞＜性教育の内容は知らない＞、【家庭での性教育】として＜家庭でする性教育は分からない＞としながらも＜家族間の性差を意識＞し、＜子どもの第二次性徴に対する父親・母親の役割＞を分担したいと考えていた。【初経予測】として＜娘の身体の変化＞＜自分と家族の初経体験＞＜娘のセクシャリティの関心＞＜ママ友からの情報交換＞、【初経を迎える準備】は＜物品の準備＞＜娘の性の関心に合わせた対応＞があった。【母親の月経観】は＜初経を祝いたい＞＜初経は成長の証し＞とする一方で＜月経は嫌なもの＞としていた。

Ⅳ　考察

参加者のうち、娘の初経対応の経験者は 1 名であったが、既に長女で初経対応の経験者が 2 名おり、全く初経対応の経験がない母親 2 名であった。娘の初経前のセクシャリティの認識と対応として、母親は服装と性情報に関する防犯意識を高くもっていた。学校における性教育においては、実施内容もわからず学校まかせの姿勢がみられた。家庭内での性教育について、分からないとする一方、父親・母親と役割分担を望んでおり、家庭内で調整をしていた。これより、学校と家庭の連携が取れる支援が必要だと考えられる。母親は、積極的に初経予測と準備をしている様子が伺えたが、母親の月経観は、肯定的なものと否定的なものがあり、母親へのアプローチの必要性が示唆された。

Ⅴ　結論

初経前後の娘への母親のセクシャリティの認識と対応として 6 つのカテゴリーが抽出された。母親は防犯の意識が高く、初経予測と物品の準備を積極的に行なっていた。しかし、性教育は学校の役割と考え教育内容にも関心がみられず、学校と家庭の連携による性教育が必要と考える。